

# 西洋薬のみでは改善しなかった咳喘息に対して神秘湯を併用して奏効した2例



岡林 麻子先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

2012年 東京女子医科大学医学部 卒業。  
その後、東京女子医科大学病院にて初期研修終了後、同呼吸器内科に入局。  
2019年より東京女子医科大学病院附属東洋医学研究所に入局。現在は非常勤講師として勤務。

## はじめに

長引く咳の原因は多岐にわたり、さらに原因が重複することも多く、治療法も異なるために治療に難渋する領域である。特に、咳喘息やアトピー咳嗽は、西洋医学的治療でも改善しないものもある。日常生活に支障をきたすほどの咳はQOLを著しく低下させるが、漢方薬の活用はQOL向上の有効な手段の一つである。

## 症例1

症 例：27歳 女性。

主 訴：咳嗽。

現病歴：Y-1年11月より咳嗽が出現し、近医にて加療を受けるも改善しなかった。同年12月後半に他院で喘息傾向と指摘され、ステロイド薬内服、抗ロイコトリエン拮抗薬、吸入ステロイド薬・β2刺激薬配合吸入薬による治療でも軽快しないため、Y年1月に呼吸器内科専門病院の受診希望にて当院を受診した。

頻回の風邪の罹患で咳嗽を繰り返し、同様の吸入薬と気管支拡張薬をベースに、悪化時には抗ロイコトリエン拮抗薬などの追加で症状は落ち着いていた。同年7月、上気道炎の罹患後に咳嗽だけが残し、吸入薬の使用では改善がみられず、夜・朝方の激しい咳嗽で不眠をきたしたため当科を受診した。

初診時所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：既使用の吸入薬に加えて、抗ロイコトリエン拮抗薬と麻杏甘石湯 3包/日を追加した。夜間の咳嗽

図1 症例1 27歳 女性

### 主 訴

咳嗽

### 喫煙歴

なし

### 既往歴

副鼻腔炎(-)、中耳炎(-)、小児喘息(-)、アトピー性皮膚炎(-)

### アレルギー歴

薬・食物なし

### 身体所見

身長 148.0cm、体重 40.1kg、BMI 18kg/m<sup>2</sup>、体温 36.6℃

### 自覚症状

咳をすると右脇が痛い、風邪をひくと咳が長引く、夜間～朝方 寝ている間に咳で起きてしまう。食欲・便秘問題なし、咽頭違和感なし。

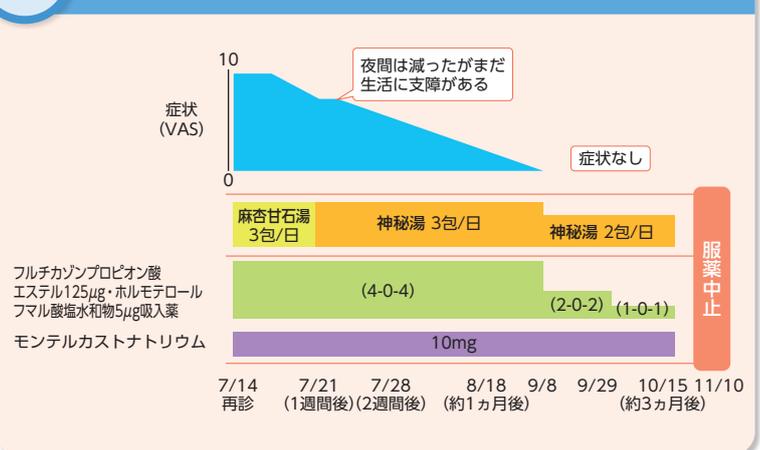
### 聴 診

異常なし

### 検査所見

血液検査にて血算やアレルギーの検査は異常なし、肺機能検査異常なし。

図2 臨床経過



は減ったが、まだ生活に支障をきたすことから神秘湯 3包/日に切り替えたところ、咳嗽は顕著に減少し、服用していた薬剤も漸減・中止となった。

## 症例2

**症 例：**43歳 女性

**主 訴：**咳嗽

**現病歴：**Z-7年12月の咳嗽を契機に近医を受診した。喘息の診断には至らないものの、吸入薬による治療では改善は軽度であった。Z-2年11月にCOVID-19に罹患し、その後コロナ後咳喘息で数ヶ月間入院した。その後も風邪を繰り返したため近医耳鼻科を受診し、慢性上咽頭炎の診断でB-スポット療法を開始した。しばらくは落ち着いたが、2~3週間で咳嗽は悪化した。吸入ステロイド薬・β2刺激薬・抗コリン薬配合吸入薬も使用したが、長引く咳嗽の影響で気分の落ち込みや仕事に対して過去に経験のないやる気のなさを感じ、日中の眠気、集中力の欠如、咳嗽で動けないことでイライラもするようになった。咳嗽がおさまらないためZ年11月に当科を受診した。

**既往歴・初診時所見：**図3に示す。

**臨床経過(図4)：**既使用の吸入薬に神秘湯 2包/日を追加したところ、2週間後に咳嗽は半減した。寒暖差でまだ咳が出ることからさらに2週間の継続で症状は軽快した。気管支喘息の家族歴があることを考慮し、神秘湯の服薬中止後も吸入薬は継続した。

## 考 察

神秘湯は、急性期と慢性期に効果的な生薬が配合された、幅広く咳嗽の治療に使用できる処方である。

『勿誤薬室方函』(浅田宗伯)では「咳嗽が続き、呼吸促迫して喘鳴があり、座ることも横になることもできず、のどの奥から喘ぐ声が聞こえ、呼吸困難するものを治す」、また『臨床応用漢方処方解説・増補改訂版』(矢数道明)では「呼吸困難を主訴とし、比較的痰が少なく、気鬱の神経症を兼ねた気管支喘息に用いる」とある。神秘湯は日常生活に支障をきたす長期的な咳嗽症状で、気鬱や胸脇苦満がある場合に使用できる。

### 図3 症例2 43歳 女性

#### 主 訴

咳嗽

#### 既往歴

多発子宮筋腫(39歳 筋腫摘出後も3個残存)、慢性副鼻腔炎(42歳)、鉄欠乏性貧血・無月経(43歳)、アレルギー鼻炎。

#### 喫煙歴

なし

#### アレルギー治療歴

レボフロキサシン水和物、メトクロプラミド、ブチルスコポラミン臭化物

#### 東洋医学的所見

脈候：沈、虚実中間。

舌候：淡紅色、やや胖大、白苔、歯痕(+)、舌下静脈怒張(+)。

腹候：腹力3/5、心下痞鞭(+)、胸脇苦満(+)、臍傍圧痛(+)、小腹拘急(+)。

四肢：浮腫なし、冷えなし。

#### 自覚症状

不安、焦燥感、空咳、痰が絡む、食欲や便通は異常なし、寝つきが悪い。

#### 家族歴

母 気管支喘息、姉 気管支喘息

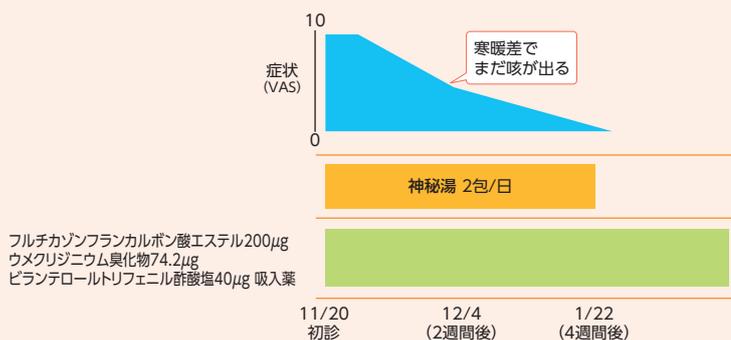
#### 身体所見

身長 154.8cm、体重 55.9kg、BMI 23.3kg/m<sup>2</sup>

#### 聴 診

異常なし、強制呼吸異常なし。

### 図4 臨床経過



## Discussion

**木村：**睡眠障害や、気分の落ち込み、不安など気鬱症状は、神秘湯の服用でどうなりましたか。

**岡林：**神秘湯の服用で、咳嗽症状だけでなく睡眠障害や気分の障害も改善しました。

**木村：**症例1は麻杏甘石湯が無効で神秘湯で軽快しましたが、先生はどのように解釈されますか。

**岡林：**本症例は慢性期の状態であり、強い咳だけでなく気鬱症状や胸脇苦満がみられたため柴胡が必要と考えました。

**木村：**神秘湯を使用の方がよい咳喘息の特徴を教えてください。

**岡林：**神秘湯は、麻杏甘石湯と柴朴湯の要素を兼ね備え、咳嗽の急性期・慢性期のいずれにも効果がある処方です。夜も眠れない、四六時中であるといった咳症状や、気鬱や胸脇苦満がある場合に有効です。